

参考資料

2013年度 業績の概要

2014年5月20日
ソニー銀行株式会社

損益の状況(1):財務会計ベース

< 連結・単体 >

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円)

< 連結 >

- **連結業務粗利益**

前年度比17億円増加の229億円。
住宅ローンの積み上がり、リスクオンを背景とした
お客様の外貨取引増加を主因に増益。

- **連結経常利益**

過去最高の56億円。

- **連結当期純利益**

前年度比1億円増加の34億円。
前年度はソニーバンク証券譲渡に伴う税効果で
利益が押し上げられていたため、微増益。

< 単体 >

- **業務粗利益**

前年度比21億円増加の207億円。
連結と同様の要因により、
資金運用収支とその他業務収支が増加。

- **経常利益**

過去最高の58億円。

- **当期純利益**

前年度比27億円増加の35億円。

	< 12ヶ月累計 >	2012年度	2013年度	前年度比	
連結	業務粗利益	211	229	+17	+8.2%
	経常利益	44	56	+11	+26.5%
	当期純利益	32	34	+1	+5.2%

単体	業務粗利益	185	207	+21	+11.7%
	資金運用収支	181	199	+18	+10.1%
	役務取引等収支	1	0	1	-
	その他業務収支	2	7	+4	+171.1%
	営業経費	139	146	+7	+5.2%
	業務純益	45	60	+14	+32.5%
	経常利益	42	58	+15	+36.5%
	当期純利益	8	35	+27	+307.8%

損益の状況(2) : 社内管理ベース

< 単体 >

- 基礎的な収益を表すコアベース業務粗利益は、前年度比6億円増加の192億円。住宅ローンを中心とした貸出金利息の増加等により資金収支が拡大。
- 資金利鞘は、前年度比0.01ポイント改善し0.93%。

(億円)

< 12ヶ月累計 >	2012年度	2013年度	前年度比	
業務粗利益	185	206	+21	+11.7%
資金収支*1	176	182	+5	+3.2%
手数料等収支*2	10	10	+0	+7.4%
その他収支*3	1	13	+15	-
コアベース業務粗利益(A) = +	186	192	+6	+3.4%
営業経費等	139	146	+6	+4.9%
コアベース業務純益 = (A) -	46	46	0	0.9%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

社内管理ベース 損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

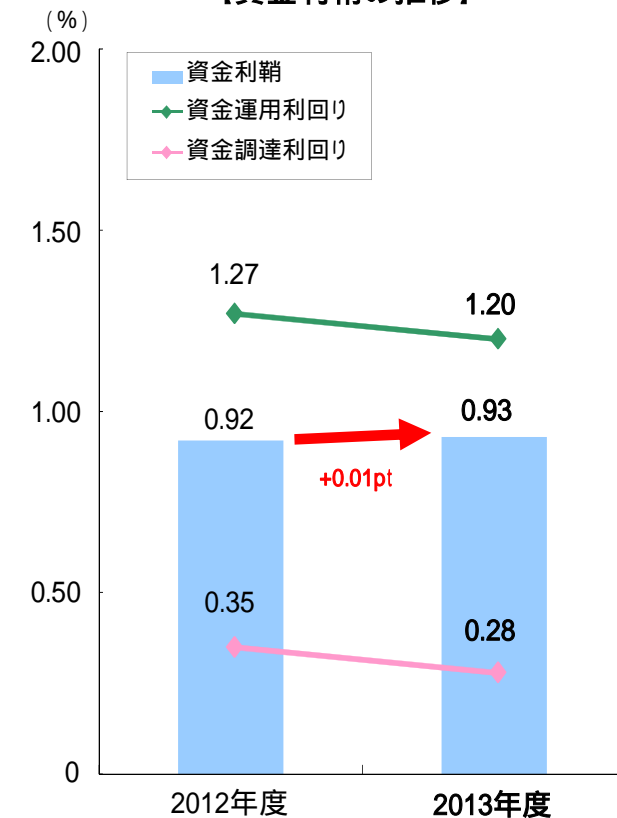
*1 資金収支... 資金運用収支 + その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

*2 手数料等収支... 役務取引等収支 + その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益

*3 その他収支... その他業務収支より*1と*2の調整分を控除したもので、主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

コアベース 社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

【資金利鞘の推移】

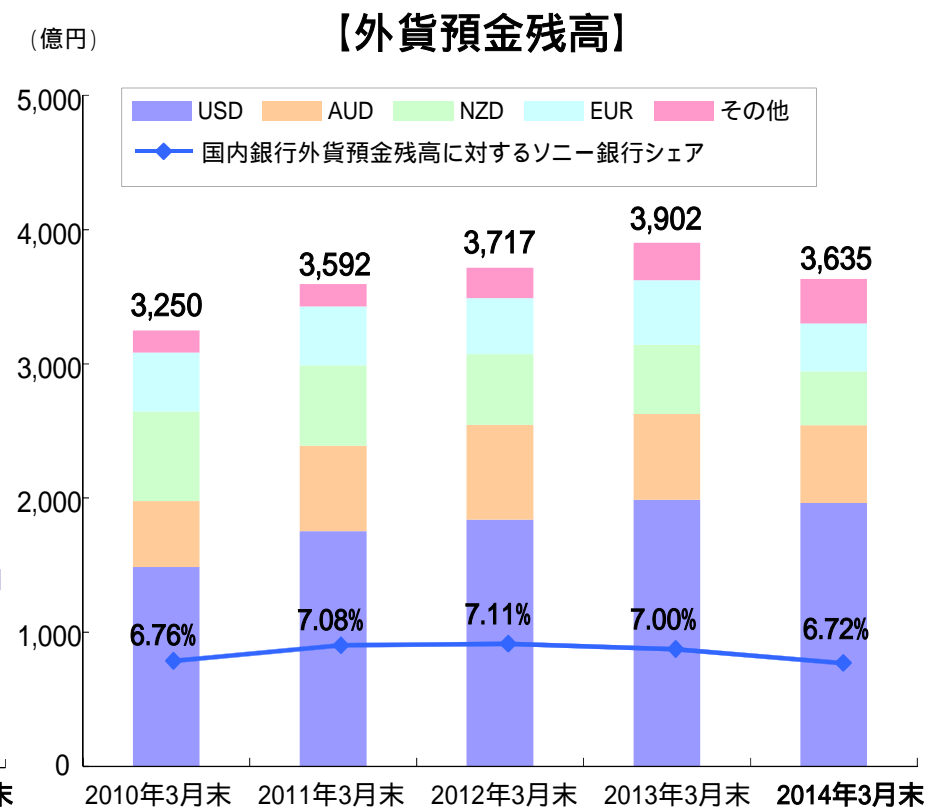
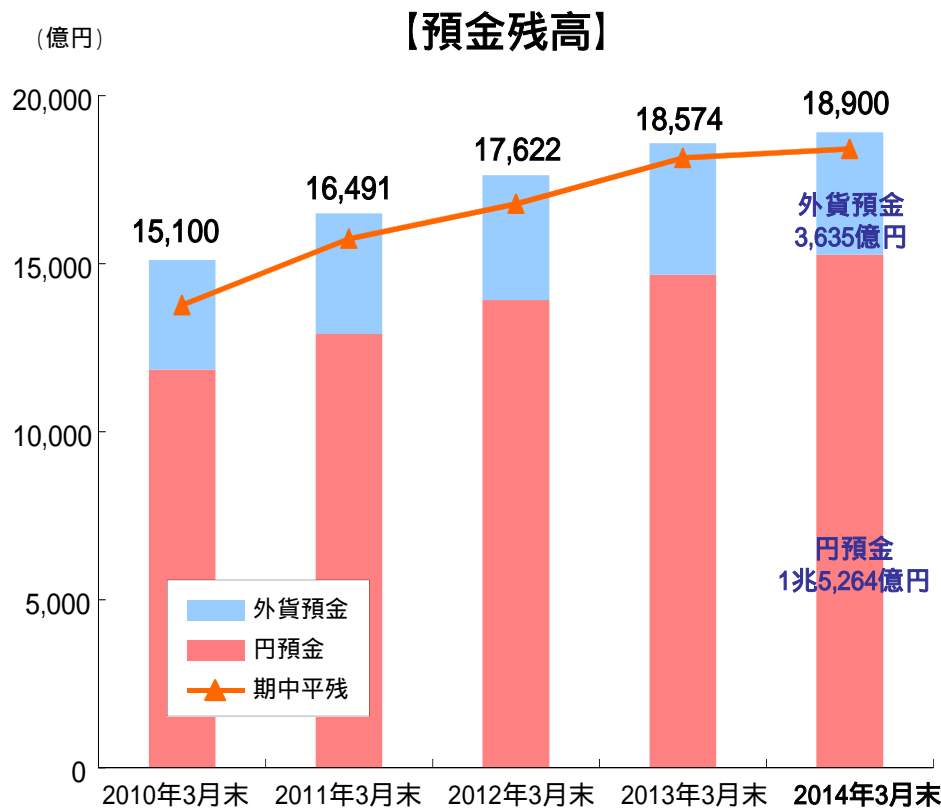


預金の状況

< 単体 >

- 円預金残高は、円普通預金の増加により、前年度末比592億円増加の1兆5,264億円。
- 外貨預金残高は、円安地合いで利益確定の売りによる円預金への振り替えが進み、前年度末比267億円減少の3,635億円。
- 2014年3月末の預かり資産残高(預金 + 投資信託)は2兆75億円。口座数は97万件。

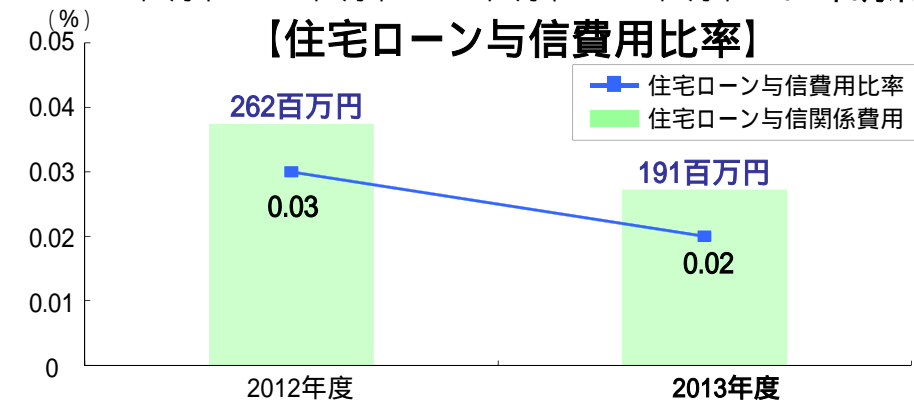
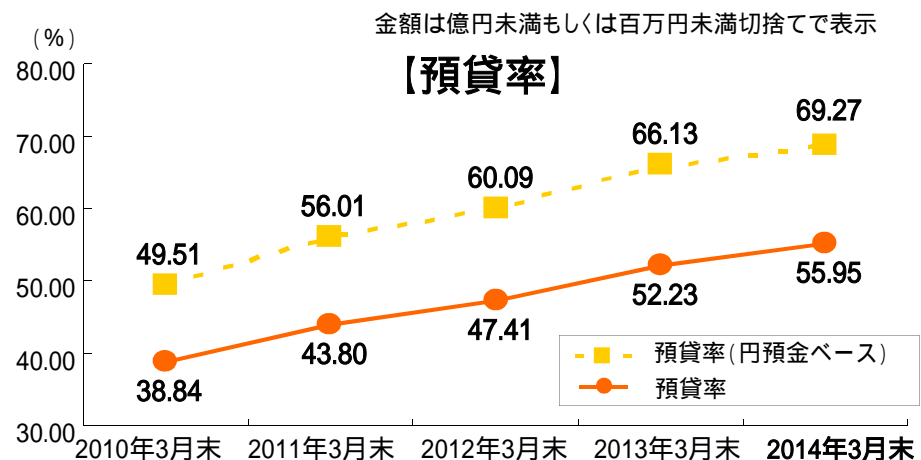
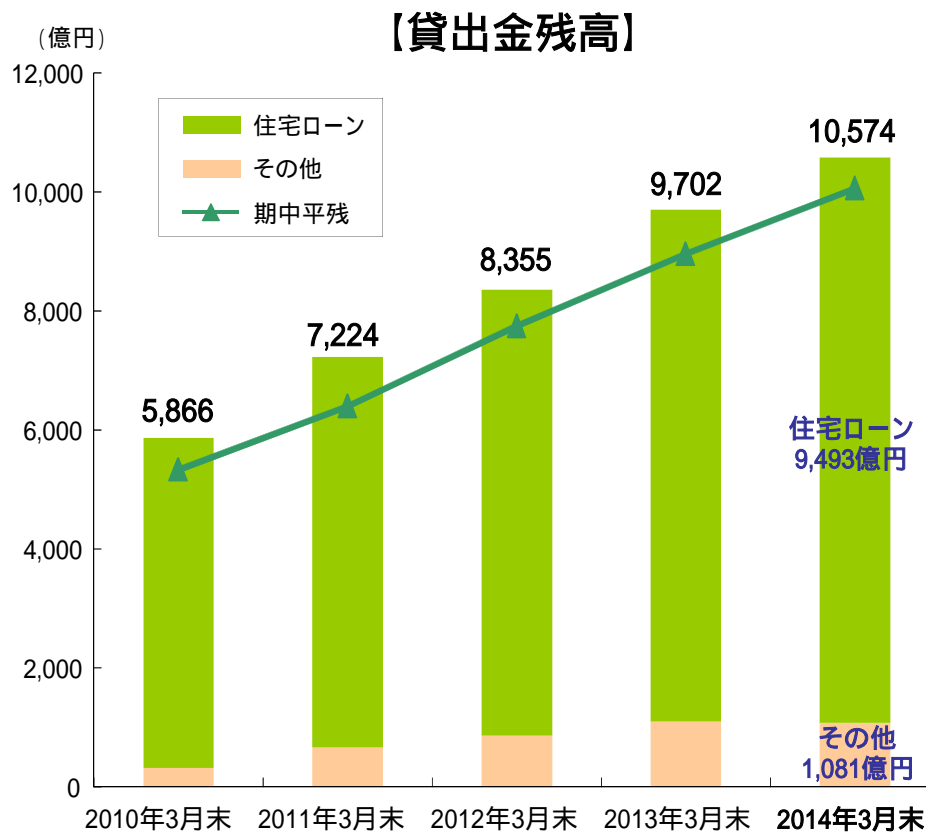
金額は億円未満切捨てで表示



貸出金の状況

< 単体 >

- 貸出金残高は、住宅ローンを中心に前年度末比871億円増加し1兆574億円。預貸率は55.95%と着実に向上。
- 住宅ローン与信費用比率は、前年度に引き続き低水準を維持。



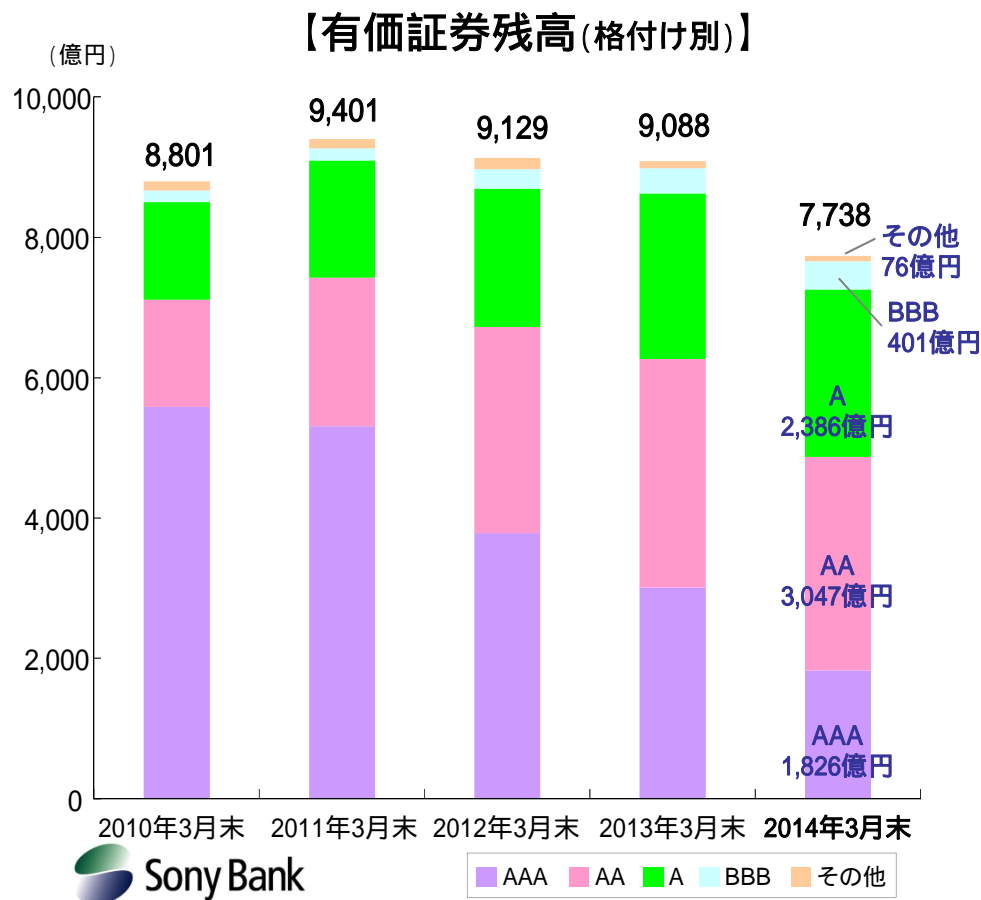
住宅ローン与信費用比率 = 住宅ローン与信関係費用 ÷ 住宅ローン平残
 住宅ローン与信関係費用 = 貸出金償却(住宅ローン) + 貸倒引当金繰入額(住宅ローン)

有価証券の状況

< 単体 >

- 有価証券は、高格付けの債券で安定的に運用。引き続き、AAA～A格の債券が全体の9割強を占める。残高は、収益性向上を目的としたポートフォリオの見直しにより、前年度末比1,350億円減少の7,738億円。
- その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)は106億円。

金額は億円未満切捨てで表示



【その他有価証券の内訳】 (億円)

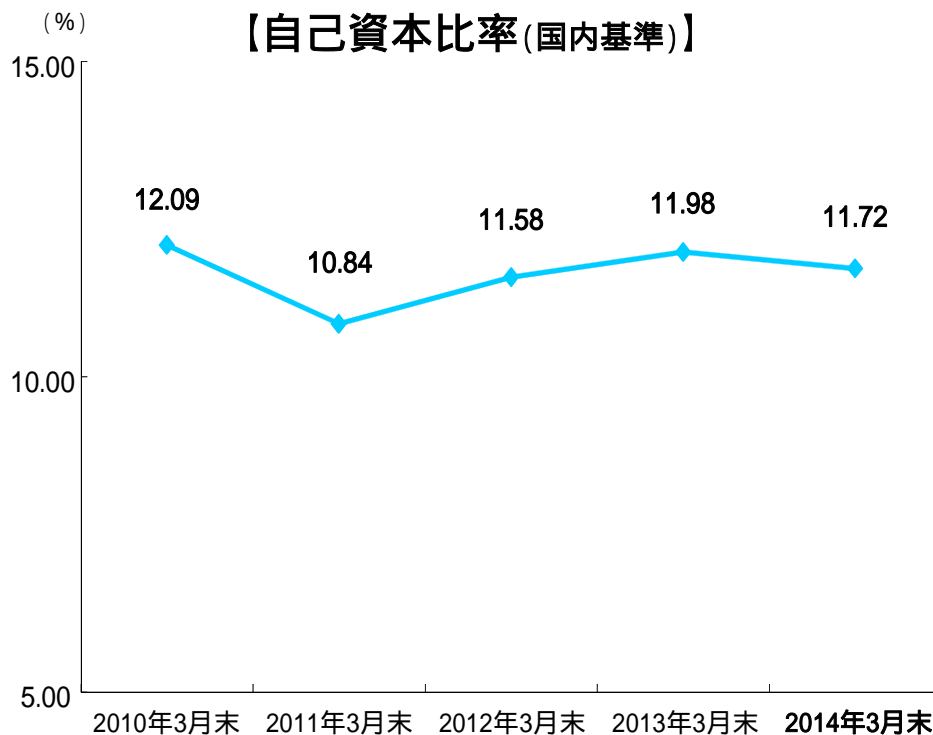
	2013年3月末	2014年3月末
債券	4,492	3,047
国債	1,860	888
地方債	612	567
社債	2,019	1,591
その他	4,491	4,586
外国債券	4,420	4,550
その他の証券	70	35
合計	8,984	7,634
< その他有価証券評価差額金 (税効果会計適用前) >	< 97 >	< 106 >

時価のあるその他有価証券の貸借対照表計上額内訳

自己資本比率・格付け情報

< 単体 >

- 自己資本比率は11.72%と、健全な水準を維持。
- スタンダード&プアーズの「長期カウンターパーティー格付け」が、2014年1月20日付けで1ノッチ引き上げられ「A+」に。



【格付け(2014年3月末現在)】

スタンダード&プアーズ	
長期カウンターパーティー格付け「A+」	アウトルック「ネガティブ」
短期カウンターパーティー格付け「A-1」	
日本格付研究所	
長期発行体格付「AA-」 見通し「安定的」	

平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出。なお、2014年3月末より、バーゼル ベースへ移行。

営業経費の内訳・預金経費率の推移

< 単体 >

- 営業経費は、ビジネスの拡大に伴い主に人件費が増加し、前年度比7億円増加の146億円。
- 預金経費率は、地方銀行平均に比べ低い水準を維持。

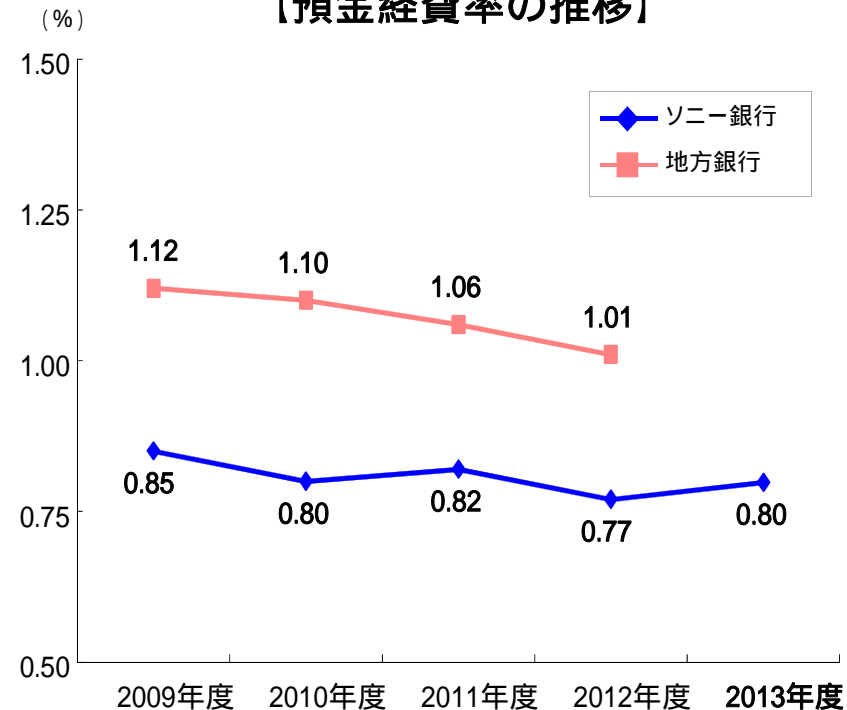
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

【営業経費の内訳】

	2012年度	2013年度	前年度比	
			増減額	増減率
営業経費	139	146	+7	+5.2%
システム関連費用	47	47	0	0.7%
人件費	34	38	+4	+12.6%
広告宣伝費	7	9	+1	+24.5%

システム関連費用は減価償却費、保守管理料など

【預金経費率の推移】



預金経費率・・・営業経費を預金等の期中平残で割った比率

出所：全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」

2013年度の主なサービス拡充施策

● お客様の資産形成をサポート

- ・500円から12通貨を対象に分散投資できる「外貨預金の積立購入」の取り扱いを開始(2013年10月)
- ・外貨被仕向け送金手数料を無料化(2013年5月)
- ・外貨預金取引に係る損益を確認できる「外貨預金 損益状況(簡易集計)」ツールの提供を開始
(2014年3月)
- ・投資信託の積み立てプランを改定し、積み立て最少金額を1万円から1,000円に引き下げるとともに、販売手数料も通常の20%割引に(2013年4月)

● 住宅ローンのサービス力と競争力を強化

- ・金利プランの金利引き下げ幅を拡大(2013年11月)
- ・提携住宅ローンの提携先拡充を推進:新規契約先4社

● 決済サービスなどの強化により利便性を向上

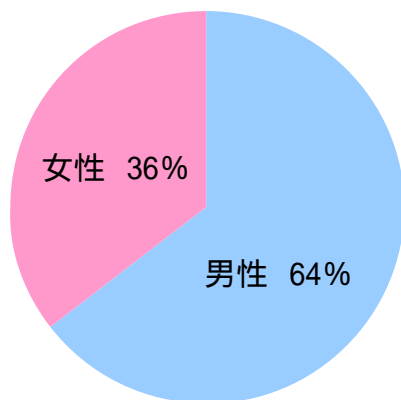
- ・SMBCファイナンスサービス株式会社(2013年6月)、三井住友カード株式会社(2014年1月)と提携し、口座振替サービスを拡充
- ・三井住友カード株式会社と提携し、クレジット決済機能を拡充した新「ソニーカード」の提供を開始
(2014年2月)
- ・ペーパーレス口座開設に対応(2013年12月)
- ・家計簿機能などを搭載するツール「人生通帳」をスマートフォンサイトに導入(2013年12月)

〈ご参考〉お客さまプロフィール(2014年3月末)

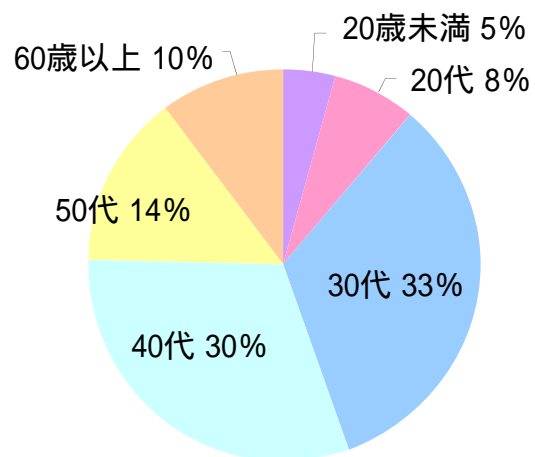
- 主なお客さまは、東京・大阪・名古屋の大都市圏を中心とした、30代～50代のビジネスパーソン。

割合は四捨五入で表示

【性別比】



【年代構成】



【地域分布】

